

SHIMA 月刊ニュースレター

モーリシャス

2025 年 7 月



** 主要ポイント **

- 政治: 基本年金改革(BRP)に反対する抗議活動とハンガーストライキ
- 外交: ディエゴ・ガルシアとチャゴス諸島に関する法案が英国下院に提出
日モーリシャス外相会談
- 経済: 2025年上半期の観光客到着数増加
- 経済外交: モーリシャスが大阪万博2025大阪・関西万博でナショナルデー国慶節を祝う
- スポーツ: ル・クール選手が、2025年ツール・ド・フランス・ファミでイエロージャージを獲得

政治

[国内]

● 基本年金制度(BRP)の改革



(写真提供: DefiMedia)

2025/26年度予算案は、「変化のための同盟」(Alliance du Changement)政権の最初の予算案として、6月27日に国民議会で可決された。しかし、最も議論を呼んでいる措置である、基本年金(BRP)の受給資格年齢を60歳から65歳に引き上げる案は、依然として憤りと抗議を引き起こし続けている。政府が設置した2つの省庁横断委員会は、この問題を検討し、7月4日、閣議に提言を提出した。



(写真提供: Le Mauricien)

同日、ラングーラム首相は議会で、2025年9月から2031年8月まで、所得支援措置を実施すると発表した。この期間中、BRPの支給要件を満たさなくなった60歳以上の市民に対し、月額10,000ルピーの給付金が支給される。この措置は低所得世帯を支援することを目的とし、約37,562人の脆弱な立場にある市民(非正規労働者、低所得者など)が恩恵を受ける見込み。

しかし、市民団体と労働組合からさらなる批判が寄せられた。彼らは、公式の貧困ラインが月額12,378ルピーであるにもかかわらず支援が不十分だと主張し、再検討を求めた。一方、スブロン社会統合・社会保障・国民連帯大臣は、この措置を妥協案として擁護し、対象者が新しい定年退職年齢に達するまでの暫定措置であると説明した。

一方、活動家、労働組合、野党勢力、および市民社会等の関係者は、これはモーリシャスにおける福祉国家の解体であると非難し、抗議活動を継続している。陳情書署名、デモ行動、ストライキ呼びかけに加え、元MMM候補者で活動家のキスンドヤル氏（Dave Kissoondoyal）は、この年金改革の撤回を求め、11日間のハンガーストライキを実施した。今後さらなるデモやハンガーストライキを含む抗議行動が計画されていると報じられている。



（写真提供：DefiMedia）

● 野党連合の結成を呼びかけ

7月17日、MSM政権下で2021年に辞任するまで大臣を務め、現在は非議会政党「モーリシャス連合（Rassemblement Mوارicien, RM）」党首のボダ氏（Nando Bodha）は、変革のための同盟政権に対抗するため、MSM、PMSD、改革党を含む野党連合の結成を呼びかけ、RMと共に共通戦線を形成するよう提案した。MSMとPMSDはそれぞれ提案を検討すると表明した一方、改革党のバダン党首（Roshi Bhadain）と「En Avant Moris」のベルクール党首（Patrick Belcourt）は、MSMを含む同盟に参加することに反対するとして提案を拒否した。

● ロドリゲス島の開発

市民団体ロドリゲス連帯運動は、ラ・トゥール・ケニグにあるネルソン・マンデラ・アフリカ文化センターで文化イベントを開催した。同イベントに出席したラングーラム首相とベランジェ副首相は、ロドリゲス島のさらなる開発と自治の強化の必要性を強調した。これには、港湾、空港、新たな廃棄物管理センターの整備計画が含まれる。さらに、ロドリゲス島行政会議は7月4日、グランクール・ロドリゲス島自治長（Franceau Grandcourt）の下で会議を開催し、土地利用計画、公営住宅、環境、教育、若者及びスポーツに関する複数の取組を採択した。

● モーリシャスの排他的経済水域 / マスカレン高原の共同管理区域



（写真提供：L'Express Maurice）

モーリシャスは、現在230万 km²の排他的経済水域（EEZ）を7.96%拡大し、ロドリゲス島東部に183,000 km²を追加することを計画している。7月7日から8月8日まで、国連海洋法条約（UNCLOS）に基づき設立された大陸棚限界委員会（CLCS）は、ニューヨークの国連本部で第64回会合を開催する。この会合では、モーリシャスを含む複数の沿岸諸国が提出した大陸棚の拡張申請が審議される。

一方、モーリシャスとセーシェルは、7月21日から23日までポートルイスで、マスカレン高原共同管理区域（JMA）の共同委員会の第29回会合を開催した。参加者は、小島嶼開発途上国（SIDS）である両国がJMAにおける海底、地下資源、漁業資源、海洋資源の持続可能な調査・管理における協力と連携を再確認した。また、石油その他の化石燃料の探査についても議論した。2012年にモーリシャスとセーシェル間の条約に基づき設立されたJMAは、両国が共有する約40万km²の海洋域を管理するユニークなモデルである。

[外務・外交]

● ラムフル外務大臣が東京で岩屋外務大臣と会談



（写真提供：日本外務省）

7月15日、ラムフル外務・地域統合・国際貿易大臣は、東京で岩屋外務大臣と会談した。この会談は、同大臣が2025年大阪・関西万博でのモーリシャスのナショナルデーに出席した一環として行われた。岩屋大臣は、モーリシャスは、法の支配に基づく「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の推進における重要なパートナーであり、来月開催される第9回アフリカ開発会議(TICAD9)を契機に、両国の協力をさらに強化していきたいと述べた。ラムフル大臣は、日本が様々な分野で協力していることに感謝の意を表し、特に、経済分野における二国間関係のさらなる強化に期待すると述べた。

● ディエゴ・ガルシア軍事基地およびイギリス領インド洋地域に関する法律



(写真提供: L'Express Maurice)

7月15日、ラムー英国外務大臣は、ロンドン下院で、チャゴス諸島(ディエゴ・ガルシア)軍事基地および英国領インド洋地域に関する法案を提出した。これは、モーリシャスと英国間のチャゴス諸島に関する協定の実施に向けた最初の立法措置となる。

この法案によると、条約の発効により、イギリス領インド洋地域(BIOT)は自動的に正式に解散し、イギリスの海外領土として認められなくなる。さらに、条約の発効に伴い、英国王はBIOTの領土に対する主権を失う。これにより、BIOTは英国籍法におけるイギリスの海外領土のリストからも削除される。

BIOTは解散するが、条約はインド洋の戦略的要衝であり、米国とイギリスが運営する軍事基地を置くディエゴ・ガルシア島に対するイギリスの行政権の継続を定めている。現在のBIOT関連法はディエゴ・ガルシア島に引き続き適用され、同島は特定の法的枠組みの恩恵を受けることになる。イギリスは、米国との既存の軍事協定を維持するため、ディエゴ・ガルシア島に関する立法権を保持することとなる。

● チャゴス諸島住民の市民権

1981年イギリス国籍法は、この重大な領土ステータスの変更を反映するため改正される。これにより、2027年11月23日以前に出生し、チャゴス諸島で出生したイギリス市民の直系子孫である者は、登録によりイギリス国籍を取得する資格を維持する。一方、BIOTを通じてイギリス海外領土市民(BOTC)の地位の申請を希望する者は、条約が発効する前に2022年に確立された手続きに従って申請する必要がある。条約が発効すると、2027年11月23日以降に生まれた子供はBOTCの地位を取得できなくなる。英国政府は、チャゴス諸島出身者が既存のイギリス海外領土市民の地位を失うことはない旨再確認した。

● チャゴス諸島への再定住とイギリスへの移住

モーリシャスのチャゴス難民グループ代表であるバンクール氏(Olivier Bancoult)は、チャゴス諸島の特定の島々にチャゴス人を再定住させる計画をモーリシャス政府に提出すると発表した。一方、イギリスでは、英国籍チャゴス人が二国間協定とその規定に強く反対し続けている。

チャゴス諸島出身者のイギリスへの移住者が増加する中、英国の地方自治体は財政的・物的な課題に直面している。ヒリンドン区議会によると、2024年7月以降、同地域に約400人のチャゴス諸島出身者が到着し、そのうち2025年5月の1週間だけで120人が新たに到着した。これに伴うケアや住宅支援に数十万ポンドの費用が発生している。

● 新駐モーリシャス英国高等弁務官の着任



(写真提供: GIS Mauritius)

ポール・ブランメル氏(Paul Brummell)が、英国のモーリシャス駐在高等弁務官に任命された。キャリア外交官であるブランメル氏は、トルクメニスタン、カザフスタ

ン、ルーマニア、ラトビアの大使を務めたほか、駐バルバドス・イギリス高等弁務官も歴任。ブランメル大使は、ゴクール・モーリシャス共和国大統領に信任状を捧呈後、ラングーラム首相及びラムフル外務大臣への表敬訪問を行った。表敬では、チャゴス諸島に関する歴史的合意に加え、条約に基づく数多くのイニシアチブおよび英国モーリシャス間の戦略的パートナーシップ、特に海洋安全保障、気候変動資金、不正資金対策、および行政機関の能力強化等の分野について議論された。

●モーリシャスの各国大使および高等弁務官の任命

7月11日、モーリシャス政府は海外の外交使節団を率いる新たな大使と高等弁務官を任命した。MSM 政権および PTr 政権下で大臣を務めた元政治家の バプー氏 (Sheila Bappoo) が駐インド高等弁務官、デュバル PMSD 党首の元顧問である実業家の ロー氏 (Joël Rault) が駐フランス大使、PTr 率いる政権で大臣を務めた元ジャーナリストのマルタン氏 (Mireille Martin) が駐南アフリカ高等弁務官、労働組合界で著名な人物であり、MMM の元選挙候補者であるカリムバカス氏 (Munsoo Kurrimbaccus) が駐パキスタン高等弁務官、元教師で MMM の活動家であるガニー氏 (Reza Gunny) が駐エジプト大使、アフリカで豊富な経験を持つ現場外交官であるバブア氏 (Indrajeet Babooa) が駐エチオピア大使およびアフリカ連合常駐代表に任命された。

●インド・モーリシャス関係



(写真提供: Radio One)

ラングーラム首相が、モディ・インド首相より、本年 8 月にインドへの公式訪問の招待を受けたことを受け、7月1日から2日まで、ミスリ・インド外務次官がモーリシャスを公式訪問した。同訪問において、両国は、モディ首相が 2025 年 3 月にモーリシャスを訪問した際に締結された合意の実施状況を確認するとともに、ラングーラム首相のインド訪問における主要なテーマについて協議した。ミスリ外務次官は、ラングーラム

首相のほか、ゴクール大統領、ベランジェ副首相、ラムフル外務大臣、ならびに元首相で MSM 党首のジャグナット氏を表敬訪問した。さらに、インド政府はモーリシャス警察に対して麻薬対策関連の機材を寄付し、麻薬対策の実務能力向上を支援した。

●中国・モーリシャス二国間関係

7月14日、黄駐モーリシャス中国大使は、ペンティア公共サービス・行政改革大臣を表敬訪問した。同表敬において、中国とモーリシャスは、研修、行政改革、能力強化を含む分野でのパートナーシップ強化、および人工知能を公共サービス部門に導入する取り組みへのコミットメントを再確認した。

7月16日から18日まで、中国人民政治協商会議 (CPPCC) 全国委員会副主席の秦博勇氏を団長とする代表団がモーリシャスを訪問した。同代表団は、ゴクール大統領、オミルディ・ジフラ国民議会議長と会談した。この訪問は、中国とモーリシャスの二国間関係と外交協力の拡大を図る取り組みの一環。代表団は中国の経済発展と近代化について紹介し、ゴクール大統領は、モーリシャスは中国を優先的なパートナーと位置付け、一つの中国原則を堅持し、経済・貿易、文化・観光、気候変動対応などの分野における二国間協力の深化を期待すると述べた。



(写真提供: GIS Mauritius)

●ガザ支援活動へのモーリシャスの参加

7月11日、左派政党ラリット (Lalit) が率いる 20 団体からなる連合「反ジェノサイド、ディエゴ・ガルシア軍事基地閉鎖共同戦線」はポートルイス市庁舎で記者会見を開いた。ガザへのグローバル行進に参加したモーリシャス人、ア・ヴェ氏、ホッセンボックス氏およびキストナサミ氏の 3 名 (Alain Ah Ve, Ally Hossenbokus, and Ragini Kistnasamy) は、ガザでの継続的なジェノサイド、イスラエルの違法占領、および複数国の共謀的な役割を非難した。彼らは、エジプトで遭遇した数

多くの検問所のため、ガザに到着できなかったことについて遺憾の意を表した。共同戦線は、モーリシャス政府に対し、イスラエルとの経済的、政治的、外交的な関係を断絶するよう求めた。



(写真提供: Le Mauricien)

●シンガポール高等弁務官の訪問



(写真提供: GIS モーリシャス)

シンガポールのリム駐モーリシャス非居住高等弁務官 (Lim Ming Yan) が、7 月 7 日から 10 日までモーリシャスを訪問した。訪問中、同高等弁務官は、ラングーラム首相、ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣、ガネス国家インフラ大臣、アミア・ミア産業・中小企業・組合大臣、ラムトフル情報技術・通信・イノベーション大臣、ペンティア公共サービス・行政改革大臣、ベランジェ閣外大臣 (環境担当) と会談し、各分野における両国間の協力と知見共有の強化について話し合った。

●海洋空間計画に関する韓国 IORA セミナー

7 月 3 日、韓国外務省は、ソウルで「未来への航海：回復力のあるブルーエコノミーのための海洋空間計画 (Maritime Space Planning, MSP)」をテーマとした第 6 回 ROK-IORA (環インド洋連合) パートナーシップセミナーを開催した。オ・ジンヒ外務省アジア太平洋局次長 (Oh Jin-hee) は、MSP は開発と保全のバランス

を図るための戦略的ツールであり、持続可能なインド洋の重要な要素であると強調した。また、今年設立された韓国・インド洋協力基金 (KICF) を通じて、韓国は IORA 加盟国に具体的な利益をもたらす協力案件を推進していくと述べた。

経済

●ブルーエコノミー：国家の優先課題

7 月 14 日、ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣は、ブルーエコノミーの開発に対する政府のコミットメントを再確認し、これをモーリシャスの経済戦略の「宝石」と表現した。チャゴス諸島周辺の海洋区域の拡大に加え、ロドリゲス島周辺のモーリシャスの排他的経済水域 (EEZ) の拡張提案を受けて、大臣は漁業、港湾業、海洋エネルギー、海運業など、多岐にわたる分野で多大な可能性があると述べた。

●2025 年のモーリシャスの観光業

モーリシャスは 2025 年上半期に 65 万 8,909 人の観光客到着数を記録し、2024 年同期比で 2.1%増加した。特に顕著だった月は 6 月で、前年同月比 30%増加。欧州が最大の市場である一方、アジアと米国からの増加も依然として小幅ながら、前向きな兆候を示している。2025 年は、計 140 万人を超える観光客数を達成する見込みだが、季節的な変動と伝統的な市場への依存が課題である。

エミレーツ航空は 2025 年 12 月 1 日から、ドバイからモーリシャスへの 3 便目の日帰り便を就航すると発表した。同便はボーイング 777-300ER を使用し、モーリシャス航空とのコードシェア便として運航される。この拡大により、座席数が 30%以上増加し、140 都市以上からの接続を向上する。これは、増加する観光需要を後押しし、アラブ首長国連邦とモーリシャスとの長年の経済的・戦略的パートナーシップを強化するもの。



(写真提供: エミレーツ)

●為替

2025 年 1 月から 7 月にかけて、モーリシャス・ルピーはユーロと米ドルに対して徐々にだが着実に下落した。2025 年 7 月 31 日現在、1 ユーロはモーリシャス・ルピー(MUR)約 53 に相当し、1 米ドルは MUR 約 47 に相当。

●メトロ・エクスプレス、1 億 5800 万ルピーの赤字見込み

モーリシャスのライトレール(路面電車)を運営するメトロ・エクスプレス・リミテッド(MEL)は、2025/26 年度に 1 億 5803 万ルピーの赤字を予測を発表。売上高予測が 5.74 億ルピーを超えるにもかかわらず、同社は借入金の返済、維持管理費、警備費、資本投資など、総額 8.13 億ルピー超の膨大なコストに直面している。

MEL の負担の大部分は、インド輸出入銀行とモーリシャス政府から借り入れた債務に起因しており、これらの債務の返済がますます困難になっている。MEL は債務の株式化や貸手との再交渉を含む選択肢を検討しているが、現時点、合意は成立していない。

●モーリシャス南アフリカ商工会議所(SACC)による予算案分析

6 月 26 日、モーリシャス南アフリカ商工会議所(SACC)は ABC 銀行と共同で、ダムリー閣外大臣(財務担当)の参加を得て、予算案分析セッションを開催した。同会合には、マンジニ駐モーリシャス南アフリカ大使、投資家、外国人専門家、企業代表らも参加。セッションでは、2025-26 年度予算の主要な方向性について議論された。具体的なテーマとして、税制改革、滞在許可制度や投資環境の改善、法に基づいた多様な経済としてのモーリシャスの位置付けの再定義などが取り上げられた。

経済外交

●モーリシャスの 2025 大阪・関西万博ナショナルデー開催

7 月 14 日、2025 大阪・関西万博において、文化、外交、持続可能な未来への共通の願いを祝う形で、モーリシャスのナショナルデーが開催された。公式行事は EXPO ナショナルデーホールで開催され、モーリシ

ヤスの島の遺産とビジョンを讃えるために国内外より参加者が集まった。

式典では、生稲外務大臣政務官より歓迎の挨拶が行われ、また、モーリシャス代表団を率いるラムフル外務・地域統合・国際貿易大臣は国旗掲揚式に参加し、スピーチを行った。



生稲外務大臣政務官の歓迎挨拶



スピーチを行うラムフル外務大臣

ラムフル大臣のスピーチ後、観客を魅了する文化的なパフォーマンスが行われた。この機会に訪日したモーリシャスのダンスグループは、セガの伝統的なリズム、カラフルな服装、ダイナミックな振り付けで島の精神に命を吹き込み、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」と共鳴した。



モーリシャスのセガ・パフォーマー

コモンズ A にあるモーリシャス・パビリオンは、海洋生物多様性、持続可能な観光、環境保全に焦点を当てたバーチャルリアリティ(VR)を使用した没入型展示で来場者を魅了した。株式会社商船三井との協力によるサンゴ礁の水槽インスタレーションが目玉で、モーリシャスの自然遺産の保護に対するコミットメントを反映している。



バーチャルリアリティ体験

式典の後、代表団と招待客を迎えた昼食会が開催された。和やかな雰囲気の中執り行われた昼食会は、ネットワーキングと文化交流の場となった。モーリシャスから、ラムフル外務・地域統合・国際貿易大臣、ビスンドヤル外務次官、チェダンパルム・モーリシャス・パビリオン政府代表等、日本から、生稲晃子外務大臣政務官、山田賢司衆議院議員・日本・AU 友好議員連盟メンバー、博覧会関係者、代表団メンバー、企業・学術関係者等が参加した。



昼食会の集合写真

このナショナルデーは、日本とモーリシャス、そして世界中からの訪問者が互いに交流し、モーリシャスの豊かな自然と文化について学ぶ機会となった。

●2025 大阪・関西万博におけるモーリシャス：高円宮妃殿下のご訪問



高円宮妃殿下のモーリシャスパビリオンご訪問

7 月 7 日、文化外交の一環として、高円宮妃殿下が 2025 大阪・関西万博のモーリシャスパビリオンを訪問された。

●株式会社商船三井代表取締役社長執行役員の訪問



(写真提供：GIS Mauritius)

7 月 8 日、株式会社商船三井の代表取締役社長執行役員である橋本剛氏が、ラングーラム首相を表敬訪問し、菅正広駐モーリシャス特命全権大使が同行した。橋本氏は声明で、会談は有意義だったと述べ、ラングーラム首相が日本とモーリシャスが共同で進めている様々なプロジェクトに対する謝意を表明したと強調した。同氏は、ラングーラム首相がモーリシャスと日本の関係強化に決意を示したことは、モーリシャスへさらなる投資戦略を持つ株式会社商船三井にとって励みになり、また、同社の東アフリカ諸国への投

資においてモーリシャスがゲートウェイとして機能すると考えていると述べた。



(写真提供: GIS Mauritius)

●ラムフル外務大臣の経済同友会との会談

7月15日、訪日中のラムフル外務・地域統合・国際貿易大臣及びモーリシャス代表団は、洪澤健氏をはじめ経済同友会のメンバーを表敬訪問した。

この会談は、二国間の経済協力を強化し、日本のモーリシャスやアフリカへの投資機会を探ることが目的だった。コーポレートガバナンスとグローバル・リーダーシップに関する先進的な姿勢で知られる経済同友会は、ラムフル大臣とモーリシャスの代表団を歓迎し、率直で前向きな議論を行った。



●モーリシャスから米国への輸出品に対する15%の関税

7月31日、トランプ米大統領は、国別「相互」関税を再開する大統領令に署名した。この措置は8月7日に発効する予定。これにより、モーリシャスは、4月に当初発表された40%の米国への輸出関税が15%に引き下げられることになる。声明の中で、ラムフル外務大臣は、この決定をモーリシャスの輸出業者にとって「安堵の息」と歓迎し、米国との交渉は引き続きオープンである点を強調した。

●シャールジャ首長国代表団の訪問



(写真提供: モーリシャス経済開発総局)

7月2日、アラブ首長国連邦のシャールジャ商工会議所会長のアブダラ・スルタン・アル・オワイス氏を団長とするシャールジャ首長国からの高官代表団がアミア・ミア産業・中小企業・組合大臣と戦略的協議を行った。2025年4月に発効した、二国間の経済協力の範囲の拡大を目指す包括的経済連携協定(CEPA)の締結後、アラブ首長国連邦(UAE)の代表団によるモーリシャスの公式訪問は今回が初めてとなる。

安全保障

●ケニア・モンバサで MASEPOLREX25 が開催



(写真提供: インド洋委員会)

7月7日から11日まで、ケニアのモンバサにおいて、インド洋委員会(IOC)はケニア海事局(KMA)と協力し、船舶による汚染事故への対応に関する現場訓練演習(MASEPOLREX25)を実施した。この演習は、海洋汚染対策を支援するための地域協力メカニズムを含む、地域海洋安全保障構造(RMSA)の運用開始に関連して実施された。MASEPOLREX25は、2024年9

月 16 日から 18 日までモーリシャスで開催された「重大な海洋汚染事故における地域協力に関する地域フォーラム」に続くもので、西インド洋地域における油流出のリスクの概要を説明し、協力のためのツールと今後の方向性を提案した。

● IUU 漁業に関する EU・モーリシャス間の対話

7 月 7 日から 11 日まで、ポートルイスにおいて、欧州連合海洋・漁業総局 (EU-DG MARE) とモーリシャス農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業省との間で、違法、無報告、無規制 (IUU) 漁業対策に関する非公式対話が行われた。対話において、モーリシャスは欧州連合の新たな支援を受けて、IUU 漁業対策への強いコミットメントを再確認した。ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣とベネディクト駐モーリシャス欧州連合大使が出席した。

● モーリシャス沿岸警備隊、マダガスカルでの捜索救助活動に参加



(写真提供: DefiMedia)

7 月 3 日、マダガスカル外務省はモーリシャスに対し、6 月 16 日に乗組員 19 名を乗せてマダガスカルのマハジャンガからコモロのアンジュアンへ向かい、行方不明となっている船 Azfardath & Windio 号に関する支援を要請した。政府の承認を受けて、モーリシャス国家沿岸警備隊 (NCG) は、モーリシャス警察部隊と協力し、モーリシャス沿岸警備隊作戦センター (MRCC) が調整する国際捜索救助 (SAR) 作戦の一環として、ドルニエ機を 2 機派遣した。この作戦は、セーシェルにある地域調整作戦センター (RCOC) との協力の下で行われた。しかし、作戦は成果を挙げず、船舶は依然として行方不明のままである。

スポーツ

● キンバリー・ル・クールがツール・ド・フランスで歴史を刻む



(写真提供: DefiMedia)

7 月 30 日、ツール・ド・フランス・ファムにおいて、モーリシャスのプロ自転車選手キンバリー・ル・クール＝ピエナールが、アフリカ人女性および地元選手として初めて黄色のジャージ (マイヨ・ジョーヌ) を 2 度着用した。彼女は第 2 ステージを 3 位でフィニッシュし、同ステージ終了時に初めて黄色のジャージを着用したが、翌日に失った。彼女は第 5 ステージ優勝後、再び黄色のジャージを着用し、スプリントフィニッシュで勝利を収め、ライバルを 33 秒差で破った。黄色のジャージは、全ステージの累計タイムが最も速い選手に授与される。ツール・ド・フランス・ファムは 2025 年 7 月 26 日から 8 月 3 日まで開催される。

● モーリシャスのバドミントンチーム、アフリカ・エア・バドミントン選手権 2025 で成功を収める



(出典: モーリシャスオリンピック委員会)

モーリシャスのバドミントン選手たちは、ガーナのアクラで開催された 2025 年アフリカ・エア・バドミントン選手権で顕著な成果を挙げた。チームは団体戦で銅メダルを獲得し、男子トリプルスと男子ダブルスで金メダルを勝ち取った。また、女子ダブルスで銀メダルを獲得した。

●競馬 - 5 人の調教師が GRA から正式に認定



(出典: モーリシャス・ターフ・クラブ)

モーリシャスの競馬界にとって重大な転機である。モーリシャス・ターフ・クラブ・ジョッキー・クラブ (MTCJC) は、ギャンブル規制当局 (GRA) から 5 人の調教師に調教師ライセンスが正式に付与されたとの最新の発表を歓迎した。これにより、2025 年の競馬シーズンに向け、GRA から認定を受けた調教師は合計 11 人となった。主な目的は、モーリシャスで競馬が再開されるにあたり、スポーツの健全性を維持しつつ公正な競争を確保し、ファン、調教師、ジョッキー、オーナーにとって興奮に満ちた体験を生み出すことである。

文化

● モーリシャスでのストーリーテリング・フェスティバル - 文化遺産祭



(出典: Enn Zour dan Enn Pei)

7 月 29 日から 8 月 2 日まで、コーダン・アーツ・センターは、第 2 回「Enn Zour dan Enn Pei フェスティバル」を開催した。本イベントは、「Enn zour dan enn pei」(「ある国で昔々」の意) 作品を中心とした物語の語り聞かせの芸術に特化した活気あるイベントである。モーリシャスとレユニオンから新たなアーティストたちが参加した。全体のテーマは「L'art du détour」(迂回の芸術) だった。これは、「zistwar」(物語) が私たちが過去へと導き、しばしば架空のキャラクターや場所を描写することで、私たちの生活や状況をより深く記録するからである。様々な会場でのマスタークラスに続き、6~8 人の講演者がアイデアのプレゼンテーションと物語の朗読を交互に行うレクチャー・ショーや、子ども向けの朗読会も開催された。

<大使館情報>

連絡先

住所：Embassy of Japan in Mauritius, Level 6, Tower C, 1 Exchange Square, Wall Street, Ebene, 72201 電話番号：(230) 460 2200, Fax:(230) 468 6612, E メール:japanembassy@mx.mofa.go.jp

当館ホームページ: https://www.mu.emb-japan.go.jp/itprtop_en/index.html

当館フェイスブックもぜひご覧ください! <https://www.facebook.com/JapanEmb.Mauritius/>

当館活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

【領事班からのお知らせ】

- モーリシャスに90日以上滞在される方は、**在留届**を提出してください。
(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

- 「**たびレジ**」をご利用ください!

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)
